Save Tropical Forests

# ウータン

HUTAN Group

141

森の通信

2021.9.20

菜の花プロジェクトみのおでは、自分達で育てた菜種を搾油して料理に利用している。
大規模農園からできるパーム油とは違い、少量しかできない貴重な油だ。(→p10)

## CONTENTS


・People (59) 笠原英俊さん……p 3
・2021年総会の報告、決算・予算 ……p 4〜7
・生物多様性条約に関する学習会の報告…p 8〜9
・日本の食用油事情と菜の花プロジェクト…p 10
・会員紹介 ……p 11
・世界とボルネオの森林ニュース ……p 12〜13

RAN日本代表の川上さんからウータンに日清食品の73回株主総会に共同行動の依頼があり、参加する。川上さんによると、同社は「2030年に持続可能なRSPOパーム油100%目標」と。前日に打合せて私は①目標設定までの各年目標、②蒟蒻などノンフライ麺の新規計画の有無、等の４点を聞きたいと伝える。

株主総会会場近くで横断幕を広げ、宣伝。株主総会に入る。説明者から「質問は１つにお願いします」と前回とは違う案内だ。私は「2030年まで各年度の目標はどうなっているか(同社RSPO油2018年20%,2019年20%, 2020年26%、それはネスレが年目標をあげず、取消事件が起きた)。ノンフライ麺製作計画は？」と聞く。

続いて川上さんが質問。同社安藤社長は「国内即席麺の認証油の目標を2025年、それ以外海外等グループ全体のグローバル調達目標は2030年」と言い切る。一歩だけ前進。各年度の削減目標は無言だ。川上さんが言う。「他のグローバル企業は2020年目標達成ないと2022、2023年目標にしている企業もあるから進めて欲しい」と。

アブラヤシ価格は昨年5月の倍以上の値段、2021年5月で4773リンギ/トンと高騰し、発電部門は操業停止せざるを得ない価格(FIT2000リンギ/トン相場)！RSPO油は世界の20%弱。それもEU等へ大半輸出だ。日本企業の取組みが遅い！（Badman）

【2018年RSPO認証油使用量割合／100%認証油目標年】(Palm_Oil_Scorcard_Japan2018.pdf等で調査)
*サラヤ(62.9%)～流石! *花王(18.4%/2025→2030年)、*味の素(20.9%/2026年100%)、*ハウス食品(レトルト分2020年達成!)、*不二製油(16.6%/2025年75%,2030年100%)、＊不二製油以外の油企業、商社は大量使用も特に遅れている！*Jオイルミルズ(1.8%/2025年)、*太陽油脂(2020年開始2.6%/2030年)、*日清オイリオG(0%/2030年100%)、*三井物産(3.3%/2030年)、*伊藤忠商事(2.1%/2025→2030年へ)、*丸紅(1.8%/2030年へ変更)、*三菱商事(4.6%/2021→2030年へ)、*双日(0%/2025→2030年へ変更)、*豊田通商(8.8%/2025年100%)等。

## 【ウータン活動記録】

6/5 菜の花プロジェクトみのおの菜種刈り取り作業に参加
6/6 明智町住民向けバイオマス発電についてオンライン講演会（いっしー）
6/13 ボルネオの森から考える環境と暮らし@炭焼き肉と京の野菜 Nicoで講演（いっしー）
6/21 「ボルネオ島に木を植えよう」の植樹とモニタリング
6/24 消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク会議（いっしー、yucco）
6/25 日清食品ホールディングス株主総会に参加＆バナーアクション(RAN・川上さん、西岡）、シニア自然大学校　自然と環境科で講演（いっしー）
6/28 日韓バイオマスNGOミーティング（いっしー）
7/10　ウータン総会、学習会「生物多様性条約から得られるヒントと今後危惧されること」（yucco、西岡、神前、井下、いっしー、missy）
7/11 新日本婦人の会　長岡京支部で講演（いっしー）
8/10 大阪ワイズメンズクラブの例会での講演（いっしー）
8/21 メールマガジンの活用についてのワークショップ（Gyro、西岡、神前、井下、エリカさん、いっしー、missy）

People 59

# 笠原英俊さん

**熱帯林で暮らす人々の生活を考えていくこと**
**が世界の問題につながる**

## ウータンとの出会い

ウータンとの関わりは古く、約45年前からです。一つは、西岡さんとの出会い。もう一つは、1990年にサラワクに行ったことからです。

西岡さんとは、1977年ごろ「自然を守れ関西市民連合」で出会い、その後も何回か集会で出会い、「高知の窪川反原発集会」では、夜通し一緒に踊りまくったりした。彼は、思いが強く、一方的に喋りまくる変わったやつですが、真実を言い当てる側面をもち、行動力のあるおもろい人間です。

1990年のサラワク旅行では、熱帯林の焼き畑での種まきの体験や、ハイキング、川の魚とり、料理体験をさせてもらった。村の教育や医療、生活の実情を知るにつれ、外の世界と関係すると彼らにとって大金がいることがわかり、熱帯林の問題が「そこに」あることを認識した。熱帯林で暮らす人々の生活を考えていくことが世界の問題につながっていくことがわかった。

僕は大学闘争を経験し、卒業後は関東で土方仕事をしたり、鋳物工場で働いたり、北海道や父島で働いたり、ヤマギシ会をのぞいたり、横浜の寿で暮らしたりした。その後。1976年に大阪にもどり、教師として働いた。

和歌山の日高原発に反対したり、南河内の地で炭焼きをしたり、「富田林自然を守る会」で里山保全活動をしてきた。物事を頭だけで考えることだけでなく、身体を使って行動して考えることで学びなおしをしてきたつもりです。今後もウータンの活動にも参加させてください。

# 2021総会の報告（2020年度活動報告と2021年度の活動案について）

**パーパス（存在意義）：熱帯林と暮らしがつながるアクションを生み出す**

**ブランドステートメント：熱帯林の仲間とつながる**

**ビジョン（めざす社会像）：ウータン・森と生活を考える会は、多様な生き物や人びとを支える森を守ります。私たちの生活と熱帯林のつながりを感じて、自然と共生する社会をめざします。**

### ミッション① 熱帯林破壊を止める！

2020年度は、莫大な量のパーム油を利用するために、熱帯林破壊によるアブラヤシプランテーションのさらなる拡大を招きかねない**パーム油発電**の反対キャンペーンを、発電所・計画地の近隣住民を中心とした市民や国内外のNGOと連携して、「舞鶴」と「福知山」の2カ所でストップ！大きな成果を上げました。2021年度は引き続き、H.I.S.やG-bioの計画がある宮城県の市民や学生団体とも連携し、国内全てのパーム油発電ストップをめざします。また、パーム油発電を後押しするFIT（固定価格買取制度）からパーム油発電を外すように経済産業大臣へ求める**オンライン署名**が16,000件以上集まっていますので、政情や議員の動きも考慮しながら提出したいと思います。

▼福知山の三恵バイオマス発電所が撤退！住民の粘り強い反対活動が実りました！

パーム油以外にも、ポンガミアや北米・ベトナムのペレットなどの森林破壊につながる可能性のある**バイオマス発電**についての情報収集を行い、国内外のNGOと連携して行動します。

### ミッション②熱帯林を再生する！

2020年度、中カリマンタン州では、複数の助成金を主な財源として苗づくりと植林（新規40ヘクタールと過去の植林地を含む65ヘクタールのモニタリング）に取り組みました。毎年続けてきたエコツアーは新型コロナウィルスの影響で開催できなかったため、代わりにオンラインでボルネオとつなぐ報告会を実施しました。

東カリマンタン州でも2020年度より助成金事業を始め、村人の焼畑で米・野菜・果樹の区画をゾーニングして緑化を進めるアグロフォレストリーを

6ヶ所／15ヘクタールで行いました。また、若者が中カリマンタン州を訪れ研修・交流もしました。

2021年度には、中カリマンタンでは引き続き助成金による植林を進める一方で、名前プレート付き植樹「ボルネオ島に木を植えよう」によりエコツアーでボルネオに行かずともつながりを感じられる企画を進めつつ、助成金に頼らない植林方法を模索したいと思います。

東カリマンタン州でもアグロフォレストリーや環境教育を続けつつ、両プロジェクト地と日本をオンラインでつなぐ報告会等も活性化させたいです。

### ミッション③つながり、伝える！

NPO法人Giftの支援でウータンの**リーフレット**が完成、さまざまな場所で配布して会員数は156人に増加しました。**熱帯林学習会**は、南米アマゾンやアフリカのコンゴの熱帯林の問題についても幅広く取り上げ、コロナ禍でオンラインも組み合わせて全国の市民に向けて4回開催し、**ウェブサイト**のアーカイブで後日観られるようにもしました。パーム油発電の問題や大学の授業など、**講師派遣**はオンラインも含め20件以上行いました。

ボルネオ産ハリナシバチの蜜を扱う「蜜林堂」の上林洋平さんのご協力で**熱帯写真館**が完成、会員の勝山雄喜さんや松井舞さんの協力でウータンメンバーの紹介や講演の動画をYouTubeにまとめ、Facebook、Instagram、TwitterなどのSNSで発信しました。今後は現地の村人とオンラインで繋いだり、現地の人が撮影した写真や動画を組み合わせるなど、現場のリアルな状況を積極的に発信していきたいと思います。開発圧力下にある熱帯林の仲間を支援するために、上記の発信を組み合わせた**クラウドファンディング**を行うとともに、「森の救援基金」をリニューアルした現地支援のしくみを検討します。

また、パーム油や木材・パルプなどを利用する**消費者としてライフスタイルを考える活動**として、当会アドバイザーの神前進一先生が代表を務める菜の花プロジェクトみのおでの菜種油づくりや有機農業への参加や、熱帯林好きが集まるコミュニティスペース「ルマ・ボルネオ」でのヴィーガンイベントなどにも協力し、熱帯林を守る仲間を増やしていきたいと思います。

◀ウータンの新しいリーフレット（外側）

# 2020年度決算および2021年度予算の報告

**2021年度 予算 （2021年4月～2022年3月）**

| 項目 | 金額（円） | 備考 |
|---|---|---|
| **（1）収入** | | |
| 繰越金 | 3,510,296 | インドネシア消防支援金 198,901円 |
| | | ボルネオ島熱帯林保全 130,616円 |
| | | エコツーリズム 119,286円 |
| | | CAN Borneo（レスキューセンター寄付分） 12,000円 |
| | | 一般繰越金 3,049,493 円 |
| 会費 | 500,000 | |
| 寄付 | 1,000,000 | |
| 事業収益 | 1,050,000 | 受取手数料（講師派遣による） 100,000円 |
| | | 業務委託収益（バイオマス発電調査・提言活動） 940,000円 |
| | | 物販収益 10,000円 |
| 助成金 | 5,450,000 | 地球環境基金 4,500,000円 |
| | | イオン環境財団 950,000円 |
| **（1）収入計** | **11,510,296** | |
| **（2）支出** | | |
| 委託報酬 | 1,800,000 | |
| コーディネート料 | 100,000 | 海外での調査・視察等 |
| 諸謝金 | 250,000 | |
| 植林活動費 | 3,300,000 | アグロフォレストリー含む |
| 消防活動費 | 198,901 | |
| 映像制作費 | 220,000 | 啓発用動画制作 |
| 旅費交通費（国内） | 500,000 | |
| 旅費交通費（海外） | 340,000 | |
| 賃借料 | 144,000 | 事務所家賃 |
| 会場賃借料 | 200,000 | |
| 諸会費 | 48,000 | |
| 図書費 | 30,000 | |
| 販売物品仕入代 | 5,000 | |
| 広告宣伝費 | 330,000 | 熱帯写真館サイト更新費、ウェブサイト構築費 |
| 会報誌制作費 | 200,000 | |
| 郵送費 | 200,000 | |
| 通信費 | 50,000 | Zoom契約料 |
| 印刷費 | 100,000 | |
| 消耗品費 | 50,000 | |
| 支払手数料 | 183,000 | コングラント利用料52,800円含む |
| **（2）支出計** | **8,248,901** | |
| **（3）繰越金** | **3,261,395** | |

**2020年度 決算 （2020年4月～2021年3月）**

| 項目 | 金額（円） | 備考 |
|---|---|---|
| **（1）収入** | | |
| 前年度繰越金 | 2,972,576 | インドネシア消防支援金 197,901円 |
| | | 植林支援@タンジュン・プティン 40,116円 |
| | | エコツーリズム 3,286円 |
| | | CAN Borneo 50,000円 |
| | | 一般繰越金 2,681,273円 |
| 会費 | 576,000 | |
| 寄付 | 860,390 | インドネシア消防支援金1,000円 |
| | | ボルネオ島熱帯林保全 90,500 円 |
| | | エコツーリズム 116,000 円 |
| | | CAN Borneo 20,000円 |
| | | RFJへの寄付13,000円 |
| | | 一般寄付619,890円 |
| 事業収益 | 128,700 | 受取手数料（講師派遣による） 109,300円 |
| | | 物販収益 19,400円 |
| 助成金 | 6,950,500 | 地球環境基金 4,500,000円 |
| | | 積水ハウスマッチングプログラム 1,500,000円 |
| | | イオン環境財団 900,000円 |
| | | Gift 50,500円 |
| 雑収入 | 20,024 | |
| **（1）収入計** | **11,508,190** | |
| **（2）支出** | | |
| 委託報酬 | 1,800,000 | |
| コーディネート料 | 0 | 海外での調査・視察等 |
| 諸謝金 | 284,000 | |
| 植林活動費 | 3,386,387 | アグロフォレストリー含む |
| 動物・文化保護活動費 | 56,250 | 伝統文化継承拠点の建設用地購入費一部 |
| 消防活動費 | 0 | |
| 映像制作費 | 220,000 | 活動紹介ショートムービー制作 |
| 広報活動費 | 433,100 | 団体紹介リーフレット、熱帯写真館、ボルネオ島に木を植えようポスター |
| 旅費交通費（国内） | 452,433 | |
| 旅費交通費（海外） | 158,798 | |
| 会場賃借料 | 254,100 | |
| 賃借料 | 144,000 | 事務所家賃 |
| 販売物品仕入代 | 15,984 | |
| 会報誌制作費 | 251,350 | |
| 諸会費 | 48,500 | |
| 図書費 | 7,290 | |
| 郵送費 | 217,857 | |
| 通信費 | 51,346 | Zoom契約料 |
| 印刷費 | 74,674 | |
| 消耗品費 | 46,559 | |
| 支払手数料 | 82,266 | コングラント利用料52,800円含む |
| 他団体への寄付 | 13,000 | |
| **（2）支出計** | **7,997,894** | |
| **（3）繰越金** | **3,510,296** | |

# 生物多様性条約に関する学習会の報告

Yucco

こんにちは！春から環境NGOに就職、５月から群馬県みなかみ町に移住して、『赤谷プロジェクト』という生物多様性の復元と持続的な地域づくりを目的とした仕事に携わっているYuccoです。ここでは、今の仕事や昨年の生物多様性条約（CBD）の国際会議（@ローマ）に参加して得られた知見も交え、『生物多様性条約から得られるヒントと危惧されること』というお題目で７月10日の総会前にお話しさせていただいた内容をご報告します。

当日は「①自己（仕事）紹介」「②生物多様性の基礎」「③愛知ターゲット」「④ポスト2020、CBD」「⑤ローマでの議論の様子」「⑥今後のスケジュール」「⑦ディスカッション」という流れで進行しました。

CBDは、「生物多様性の保全」「生物多様性の構成要素の持続的な利用」「遺伝資源の利用から生じる利益の公正で衡平な配分」という３つを目的とした国際条約です。そこでは、2010年１月に日本から提案された、自然と共生する世界の実現を2050年までに目指すという長期目標（ビジョン）のもとで、生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施するという2020年までの短期目標（ミッション）が掲げられています。その短期目標は愛知目標と呼ばれ、20の目標達成を目指してこれまで各国で取り組みが進められてきました。この効果検証を踏まえ、次の10年に向けた『ポスト2020』という新たな目標が今作られようとしています。

私は偶然が重なってCBD Allianceというに関わるNGOのネットワーク組織のひとりとして、2020年２～３月にローマで開かれたこの『ポスト2020』のための第二回目公開ワーキンググループ(OEWG2)等に参加させていただきました。『ポスト2020』の方向性は愛知目標と大きく変わらず、その実効性を高めるための議論が繰り広げられているものと理解しています。これより後は新型コロナウイルスの影響で予定されていた会議が開催できなくなっていましたが、2021年５～６月に史上初のオンライン開催として科学技術助言補助機関会合（SABSTTA）等で『ポスト2020』の数値目標への助言等に関する議論が、そして８～９月にはOEWG3で最終検討が実施されています。今後、『ポスト2020』の採択が目指されているCOP15は、10月11日～15日にオンラインでハイレベル会合が開催され、2022年４月25日～５月８日に対面で会合が開かれる予定です。

オンライン開催によって世界中の人が議論の様子をYouTube等で見られるようになったというメリットがある一方で、CBD Allianceをはじめ多くの市民社会セクターらは、会議中に政府代表

団等と直接交渉ができなくなったことを問題として指摘しています。実際に私がローマで会議に参加した際も、例えばユースのグループが若者の意見をまとめた代案をもとに国連事務局と意見交換を行っていたり、会議において影響力の強い国にCBD Allianceが申し出てNGOとの意見交換の場が設けられたり…と、あらゆる場所で『意見交換』ひいては『交渉』が行われているのを目の当たりにしました。日本に居て国際会議の結果をまとめ上げられたレポートを読むだけでは見えないような議論がそこには溢れていて、これが国際会議なのだなと実感しました。COP15で来春に対面会合が予定されているのは、そういった直接交渉の重要性が再認識されたからだとも言えます。

さて、今回のディスカッションの場では、参加者の皆さんから「生物多様性などと言われるととっつきにくいイメージを持ってしまう。」「本当は身近な問題だけど、自分ゴトには思えない。」といった意見が聞かれました。実は、私がCBDに関わったきっかけは「何としても舞鶴のパーム油発電計画を止めたい！」というローカルな問題に対する想いでした。CBDを通じて、パーム油発電を促進しているFIT（再エネ固定価格買取り）制度は、愛知目標でその廃止が合意された生物多様性に悪影響を与える奨励措置そのものだと気づかされ、会議で出会った多くの人から「その通りだ！それはいけない！」と賛同を得ました。このように、CBDの中で各国が合意したこと等と目の前の問題との繋がりに気付き、同様の問題に立ち向かう世界中の同志に出会えることで、私たちはより力強くなれるように思います。生物多様性というのは大変幅広い概念だからこそ、まずは皆さんの課題とCBDの繋がりを見出して「上手く活用してやろう！」という気持ちで眺めてみると良いかもしれません。きっとヒントや武器になることがCBDから見えてくると思います。

現在CBDでは、企業（プライベート/エコノミック・セクター）の巻き込みを促進し、気候変動のように大きな資本を呼び込んで生物多様性の主流化を図っています。これに対して、必要な規制が作られなくなったり、生物多様性の保全という名目で実際にはその損失を招く企業に資金が流れたりということが、主に市民社会セクターから危惧されています。私の意見としては、資金不足はやはり根本的に大きな問題なので、現代社会においては企業の巻き込みはひとつの効果的なアプローチだろうと思い始めています。危惧されるような事態を回避するためには、透明性のある議論が行われるように市民として監視の目を持ち続けること、また、生物多様性の保全に寄与していると期待される地に足の着いた活動や団体が国際的な動向を勉強し、この新しい資金（チャンス）を掴むことが求められているのではないかと考えます。国際会議の場においても、CBDに参加している企業は大変よく勉強されているなぁと感心させられました。私たち市民の力は基本的に弱いので、彼らに対抗するためにはパートナーシップで乗り切るしかないように思います。

ウータンにはローカルな視点を持ちつつも、果敢に（無謀に？）国際的な視点を取り入れようとする人が比較的多いように感じています。現場にも世界にも飛び込んでみることを好む私たちウータンが『ポスト2020』においてどのような役割を果たせるのか？皆さんと一緒に考えて実行し続けていきたいと願っています。

【参考資料】
・環境省, 2013, COP10・11の成果と愛知目標
・環境省, 2019, IPBES 生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書
・環境省, 2021, IPBES 生物多様性分野の科学と政策の統合を目指して

# 日本の食用油事情と菜の花プロジェクトの活動

菜の花プロジェクトみのお代表，ウータン・森と生活を考える会アドバイザー
神前進一

## 日本の食用油事情

私たちの食生活は高度経済成長期に大きく様変わりし，1人1日当たり油脂類の熱供給量は1965年の159kcalから85年の354kcalへと2.3倍に急増した[1]。日本で最も多く消費される食用油は菜種油（キャノーラ油）で95％がカナダから輸入され7割以上が遺伝子組み換えと言われる。

次いで多いのがパーム油で，食用油として市販されないもののさまざまな加工食品やファーストフードで年間1人当たり5kg以上消費している。パーム油はインドネシアとマレーシアから輸入され，原材料であるアブラヤシの生産過程において環境，人権，労働などの面で多くの問題をもつ。例えば、インドネシア産のパーム油の81％が違法な森林伐開と関連しているとされる[2]。

サラダ油の主原料の大豆は，同量の油生産にアブラヤシの約6倍の土地が必要で，ブラジルのセラードでは広大な叢林が失われている。また，これらの食料油は製造過程で化学薬品による抽出や熱処理が行われ人体への安全性に関して疑問が残る。食用油自給率3％の中で実質的に唯一の国産油と言えるコメ油は，酸化した米糠から抽出法で製造されるものがほとんどで，安全な油とは言えない。このように日本で消費される主な食用油は生産地の環境や人権を犠牲にし，私たち消費者が加担していることを心に留めるべきである。

## 国産の安全な食用油を求めて

日本では古くは油が貴重品で荏胡麻油，次いで菜種油が燈明用に使われ，19世紀からは食用油目的の西洋ナタネの栽培が急速に拡大した。明治から1960年頃まで菜種油はほぼ自給できていたが，その後外国産の安いナタネの輸入に完全に取って代わられ，1970年には自給率は10％を切った。ナタネの栽培面積は1957年の25万haをピークに急減し1970年に2万haを割り，2000年には約300haまで減少し風前の灯火となった。その後北海道での大規模栽培が始まり2016年には約2000haまで回復し横ばい状態が続いているが，自給率は0.2％に満たない。2020年現在，北海道は栽培面積の57％，生産量の79％を占め，単収は270kgと都府県平均の約3倍である[3]。

菜の花プロジェクトは1998年に滋賀県で生まれた活動で，1970年代後半の琵琶湖の水質を守る石鹸運動にルーツを持つ。遊休農地などでナタネを栽培しナタネ油を生産，油粕は飼料や肥料に，廃食油はBDFにして燃料に利用するという資源循環型で自立型の地域社会づくりを目指している。

## 菜の花プロジェクトみのおの活動

菜の花プロジェクトみのおは2005年に全国100番目の団体として発足し，今年で16年目を迎える。大阪府箕面市止々呂美の休耕田を借りてスタート

[1] 農林水産省『平成21年度食料・農業・農村白書』
[2] Forest Trends : Illicit Harvest, Complicit Goods: The State of Illegal Deforestation for Agriculture. (2021)
[3] 農林水産省「作物統計」，ただし2002～9年はナタネに関する統計が公表されず，FAO「FAOSTAT」を参照。

したナタネ栽培は，現在は茨木市泉原と箕面市内2カ所の遊休農地約20アールを借りて栽培している。農家を含まない20人ほどの実働会員の参加により，心臓疾患のリスクがあるエルシン酸を含まない西洋ナタネ「ななしきぶ」を農薬も化学肥料も使わない有機農法で栽培している。連作障害を避けるためナタネは農地の約半分に作付け，昨年は約110kg，今年は約75kgを収穫した。刈り取ったナタネは稲架で乾燥させ，足踏み脱穀機と唐箕を使って取った種は，化学薬品による抽出を行わない圧搾法で岡山県西粟倉村や滋賀県東近江市に搾油を依頼し瓶詰めで販売している。ナタネの収量は10アールで100kg程度，油にすると約25kgで生産性が低く，採算性が低いので農家への広がりは見られない。

菜の花プロジェクトみのおではナタネ栽培に加え，農地の半分で約100種類の野菜を有機栽培し週4回販売して活動経費を捻出している。ほかに学校等でナタネを使った環境教育や食育，市民向けのナタネの搾油体験や啓発イベントも行っている。

中山間地の棚田にある泉原の畑では，ウータン会員やヴィーガンの若者も加わり今年から新たに休耕田2枚を借り受け，毎週末に多くの参加者が自然の中で農作業を楽しんでいる。菜種油の生産量は微々たるものだが，農に関わる若者が増え，食用油の貴重さを認識して，油まみれの食生活を見直す動きに広がることを期待している。

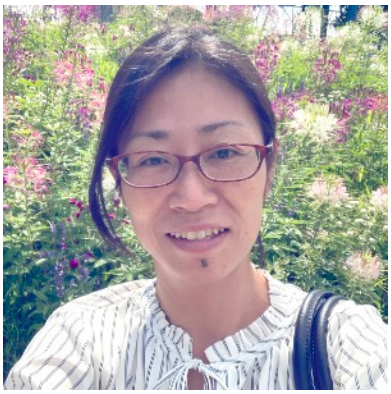
# 会員紹介

はじめまして。ウータン・森と生活を考える会でボランティアをさせて頂いております早山玲子と申します。

私は国際協力に興味があり、2014年に関西NGO大学で石崎さんと知り合いました。一昨年からはウータンの学習会に参加させて頂いたり、自分も情報をシェアして発信させて頂いたりしています。昨年は農園のボランティア作業に小学生の息子と娘を連れて参加させて頂きました。ルマ・ボルネオでの映画会やイベントにも「参加できるときに自分のペースで」…をモットーに細く長くつながらせて頂いています。中でも1番印象に残っているのは豊中市民環境展にワークショップのブースを出展するお手伝いをさせて頂いたことです。就学前や小学生の子どもたちを中心に市民の方と交流できる機会があり、とても良い経験になり楽しかったです。

これからも環境保全活動に参加したり脱炭素社会の実現に向けて少しでも何かアクションを続けていけたらと思います。他にも平和・教育・保育・福祉・難民支援など幅広く関心があります。

子育てがひと段落したらバックパッカーの旅に出てみたい、JICAの海外ボランティアに再挑戦してみたい、あわよくば保育園を作ってみたいと妄想を膨らませています。



今後ともどうぞよろしくお願いします。

### 過去20年に世界でマダガスカルの面積の森林再生

Trillion Treesの新たな評価によると2000〜2020年に世界でマダガスカルの面積に匹敵する5890万haの森林が再生，220〜250億本の樹木は米国の年間排出量相当の59億トンの炭素貯留を可能にする。しかし森林消失のペースはこれを上回りWRIによると同期間に6470万haの一次林が失われ樹木被覆の喪失は4.11億haに達した。[Mongabay 5月12日]

### 世界の植林地データベースをMongabayが作成公開

Mongabayは80か国350以上の植林プロジェクトについて公表されている情報を集めたデータベースを作成・公開。植林プロジェクトの正当性や効果を評価するための14項目の情報は投資家やドナーが支援するプロジェクトを選択する際の材料となることが期待される。[Mongabay 5月17日]

### 世界の保護地域面積は陸域の17%に近付いている

UNEPとIUCNの新たな報告書によると世界の陸域の保護地域面積は2020年のCBD愛知ターゲット目標11の17％に近付いている。一方海域の保護面積は2010年以来3倍になったが8％で目標の10％に達していない。一定の成功はあったが保護地域の面積だけでなく質により焦点をあてるべきと世界のリーダーは合意している。[Mongabay 5月20日]

### 農牧業目的の熱帯林伐開の69%が法や規則に違反

Forest Trendsの報告書によると2013〜19年に農地や放牧地のために伐開された熱帯林の少なくとも69%が法や規則に違反している。この間の違法伐開面積はノルウェーの面積に匹敵する3170万ha。商業的農業による森林消失でのCO2排出量は熱帯林破壊による排出量の42%，年間2.7ギガトンで中国，米国に次ぐ世界3位に相当する。[Mongabay5月20日]

### ベトナムが2025年までに10億本の植林計画

2020年後期の相次ぐ台風被害後，首相は地滑りと洪水防止のため2025年までに10億本を植林する計画を発表。しかしどのような樹種をどこに誰が植えるか，さらに費用の詳細は示されていない。皆伐後に外来種の産業造林を拡大してきた従来の植林方法の見直しが求められている。[Mongabay 5月20日]

### 高炭素貯留森林（HCS）分類の詳細地図が年末に公表

世界最大のチョコレート原料企業バリーカルボー社の基金によりチューリッヒ大学研究者が森林を10×10m区画で植生の炭素貯留度を6分類した高解像度地図が今年末までに公表される。当面インドネシア，マレーシア，フィリピンをカバーする。これにより企業がサプライチェーンでの森林破壊状況を確認できる。[Mongabay 6月1日]

### EUのバイオマスエネルギー政策の転換を求める議論

EUは再生エネルギー指令REDIIの見直し作業中だが，科学者の見解で森林バイオマス燃料は炭素中立でなく，木質ペレットは発電単位当たり石炭よりも炭素排出が多い。しかし森林産業とEUは2030年に炭素排出量を55％削減する目標に木質バイオマスの燃料，発電材料利用が有効と主張。EUでは生産木材の50％以上がエネルギー利用。[Mongabay 6月1日]

### アマゾンは炭素排出源であることを大気測定で検証

Nature誌に発表された論文で，ブラジルアマゾン広域の4カ所での大気中濃度の直接測定の結果，炭素吸収力に地域差があるが排出量が吸収量を上回ることが初めて検証された。地球上の炭素収支を均衡させてきたアマゾンは，樹木の生長と枯朽のバランス崩壊と火災による炭素排出で純排出源に転じた。[Mongabay 7月14日]

### アマゾンの気温上昇と乾燥化が火災と森林消失を増幅

アマゾンの平均気温は過去30年で1〜1.5°C上昇，百年に一度の旱魃がこの15年で3回発生し，火災と森林消失を増幅。乾燥化に適応した植物が広がり，アマゾン中部では氾濫原林がサバンナに置き換わった。森林消失だけでなく森林劣化の影響も重要度を増している。[Mongabay 7月20日]

### 牧牛と大豆が連動して南米の森林破壊を進めている

2000年以来南米の大豆生産量は3倍に増加しカリフォルニアを上回る面積になった。大豆農場は古い肉牛放牧地からの転換が一般的。大豆畑の拡大で牧場は新たなフロンティアへ移動し森林消失と火災の原因となる。大豆は森林消失の間接的要因であることが多く，森林破壊対策では複数の産品間の関連性を考慮する必要がある。[Mongabay 7月22日]

### EUの制裁はミャンマー産チーク取引の打開策にならず

EUは6月からミャンマーの全木材生産と販売を掌握する国営企業に対し同国から直接輸入される木材は違法とする制裁を課した。これは軍事政権への強い政治的シグナルであるが，違法木材取引への影響は限定的と専門家。国際社会の協調した行動で違法な資金源を断つ必要が求められる。[Mongabay 7月22日]

### 熱帯林の脆弱性を測る新たな指標発表

National Geographic協会とRolex社の支援のもと世界各国の50人以上の科学者が熱帯林脆弱性指数（TFVI）を発表。全世界規模で40年間の衛星画像を使い気温上昇，旱魃，伐開など増大する森林への脅威の影響を評価。誰もがアクセス可能な標準化した衛星監視システムを使い臨界点に近い森林を早期に特定し保護努力を集中する。[Mongabay 7月28日]

# FOREST NEWS インドネシア＆ボルネオの森林ニュース

### 違法伐採処罰に反資金洗浄法を使うべきと司法長官

インドネシア司法長官と反資金洗浄庁は違法伐採に対し密輸ルートにまで踏み込む金融犯罪アプローチを使うことを求めるとともに汚職対策もカギになると発言。環境林業省や警察による違法伐採を環境犯罪として現場での実行犯を逮捕する方法は法執行が不十分で抑止効果も薄い。[Mongabay 5月7日]

### 350万haが3年以内にアブラヤシ開発で伐開の危機

インドネシアのアブラヤシ事業許可地内には350万haの天然林が残るが，3年以内に植栽しないと没収される。2018年以来のアブラヤシ新規事業許可凍結は今年9月に期限切れに。既存の許可地域内に150万ha存在する保護価値の高い森林に高保護価値（HCV）や高炭素貯留（HCS）アプローチで生態系サービス支払いの導入が求められる。[Mongabay 5月7日]

### 北スマトラタパヌリのダム予定地の地滑りで10人死亡

北スマトラ州タパヌリのバタントルダム建設予定地で地滑りが発生し10人が死亡。地震多発地帯でもあるこの地域での最近5か月で2度目の地滑りで，ダム建設に伴う森林伐採はタパヌリオランウータン生息地の分断だけでなく，地滑りや洪水などの災害の多発も懸念される。[Mongabay 5月7日]

### オムニバス法はアブラヤシ開発のホワイトウォッシュ

昨年11月に成立したオムニバス法はアブラヤシ開発のホワイトウォッシュになった。森林地域内でのプランテーションを禁じる2013年の法律は実効力がなく337万haのアブラヤシが森林地域内で違法栽培。この法律では3年間の猶予期間内に罰金を払い事業許可を得ることが可能。これは政府も共謀した環境犯罪であるとNGOや法律家。[Mongabay 5月10日]

### オランウータン生息地の森を製紙会社が違法伐採

Aidenvironmentのレポートによると秘密主義のAlas Kusuma社子会社が2016年以来西カリマンタン州クタパン県北部で6000haのオランウータン生息地の森林を違法皆伐。同社は45.5万haの伐採，産業造林，アブラヤシの事業許可地を西・中カリマンタン州に保有，2つの伐採子会社はFSCの認証を取得。同社の合板の主な輸出先は日本で住友林業と伊藤忠が2020年に約2万トンを輸入。[Mongabay 5月17日]

### スラウェシで違法伐採増加

スラウェシ島で違法伐採が2020年に前年比70％増加したと地元NGO。コロナ禍の移動制限でパトロールが手薄になったうえ，伐採跡地でのコショウ栽培も誘因。違法伐採者が逮捕されるが背後で資金提供する実業家が罰せられない違法材ビジネスの組織犯罪が問題。違法伐採が拡大し，合法伐採は供給過剰による木材暴落で苦境に。[Mongabay 5月17日]

### 東カリマンタン州ブラウの14村で洪水被害

ムラサ村のある東カリマンタン州ブラウ県の大雨で2つの川が氾濫し14村2507戸が浸水。同県には94の炭鉱事業許可地があり，20が氾濫した川沿いに位置。採掘のための大規模森林破壊で保水力が低下したうえ，放置された露天掘り跡地の破堤が洪水を増幅させた。同県には11の違法炭鉱もあり，警察が洪水との因果関係の調査に着手。[Mongabay 6月1日]

### サラワク州の先住民地域でサムリン社が村領域侵犯

バラム川上流の先住民プナンとクニャーはマレーシア木材認証協議会（MTCC）に対し伐採企業サムリン社が村領域を侵犯し住民への事前合意を得るFPIC手続きを正しく履行しなかったと苦情申し立て。会社側はこれに反発し反対住民を黙らせるために法的措置をとると脅迫。[Mongabay 6月1日]

### プランテーションのデータ公開を最高裁が政府に命令

2017年に最高裁は政府にプランテーションに関する全データと地図の公開を命じたが，土地省はこれに従わず他の政府省庁とのデータ共有も拒んできた。政府の異議申し立てが最高裁により2020年に却下，ようやくアブラヤシ開発に関するデータが公開されることが最終確定した。[Mongabay 6月21日]

### インドネシア9県が森林と泥炭地の50％保護宣言

インドネシア6州の9県が2030年までに重要な生態系の50％，森林580万haと泥炭地190万haを保護すると宣言。2018年にパプア両州が森林地の70％の保護を公約したマノクワリ宣言に呼応した動き。これら9県は持続可能な県連合を結成。1998年のスハルト体制崩壊後，森林等の土地利用計画や開発許可の広範な権限は中央政府から県レベルに移管している。
[Mongabay 7月15日]

### FSCがパプアでの人権侵害でKorindo社を追放

インドネシアと韓国の合弁企業Korindo社がコンプライアンスの検証でFSCと合意できず会員権はく奪。同社のパプアでの巨大アブラヤシ開発は，地元へのFPIC欠如や補償問題，HCVを含む3万haの森林伐開などが告発されてきた。FSCは2019年に会員権維持のための是正要求を行ったが認証機関の2年の調査で改善が検証できなかった。[Mongabay 7月15日]

### 北スマトラで製紙会社に勝訴した慣習林が食料基地に

北スマトラ州の先住民の村で住民が慣習地に乳香をとる木を植えてきたが，2009年にパルプ会社が産業造林を始め土地紛争が発生。長年の闘いの後2020年末に政府は住民に慣習権を認めた。しかしその面積は政府の食料基地計画地に指定され半分以下に縮小されていた。
[Mongabay 7月27日]

## イノさんの気まぐれ読書あんない

### 『ぼくの村がゾウに襲われるわけ。ー野生動物と共存するってどんなこと？』

岩井雪乃 著　合同出版　2017年7月

読みやすいが、深い。

大学院生の時、保護区に接する「密猟者の村」に住み込み調査。意外にも、日本に好感を持つ、きさくな村人達だった。自然と共存していた人々が「自然保護」に追いつめられる。象が殺されれば、村人が逮捕されるが、象牙密輸の黒幕には手が及ばない。一方、象に作物を奪われ、踏み殺されても、補償はない。なぜ？

北米、日本など、世界中の「保護区」と先住民の問題も考える。

著者は早稲田大学准教授、アフリック・アフリカ理事。「アフリカゾウと住民の共存」をテーマに、研究・ボランティア活動・NPO事業を展開中。（著者紹介より）

## ボルネオ熱帯写真館 今号の一枚

### アカエリトリバネアゲハ

マレー半島、スマトラ、ボルネオの各島々に分布しています。かつて博物学者ウォーレスが鳥と見間違えたことにその名を由来する大きく美しい蝶。羽を広げると大きさは10cmを超える。森の中を飛ぶときにはエメラルドグリーンに見える翅の帯が、日光の下では青く輝いて見えます。

▼ボルネオ熱帯写真館より
http://tropicture.hutangroup.org/

# 会計より

## ありがとうございました！

### ✱ 会費や寄付等をいただいた方　2020/4/1～7/31（五十音順、敬称略）

安部希美、有川真理子、有木吾郎、池田光司、石田英夫、一井リツ子、井上真、井下祥子、植木ちえみ、碓井真知子、歌川春花、大久保希美、大崎満、大田伊久雄、大西裕子、大平浩子、岡島史恵、奥井実、春日直樹、加藤直樹、加納隆、上萩寛、北風泰子、栗岡理子、下司聖作、小林美貴子、小吹岳志、助友伸子、関口伸一、髙橋智恵、谷口正次、田村節子、中村彩乃、西浦よしえ、橋本征二、早山玲子、東田早苗、廣若剛、藤原恒夫、古沢広祐、本田次男、本田実、舞鶴西地区の環境を考える会、真次成昌、松田弘行、松本友里恵、緑の社会福祉士、三宅恵美子、宮坂絵利佳、柳下恵子、柳瀬圭乃、由良行基周、渡邊千秋

## 支援者さんの声～ボルネオ島に木を植えよう

海外に行けない今だからこそ、現地とつながりボルネオ島の森づくりに参加する方法として、名前プレート付きの植林への参加を先日から募集しています。
これまで4月と6月の2回で合計62本の植林をし、クルイン、ニャトー、イドゥール、ウバール・サマック、ウバール・プティ、パプンの6種の在来樹種を植えました。これらの木が大きくなってつける果実は、オランウータンやテングザル、マメジカなど野生動物の食料となり、多様な命を支えてくれます。
以下に参加者さんからの感想を紹介します。

- **動画で植林された様子がよくわかり、やはり動画付きに申し込んでよかったです。**
- **マップで、植林された地点を検索してみて、地図上の地点を確認できました。**
- **早くコロナ禍が終息して、皆さんとご一緒に現地に行けれるようになればと願っております。**
- **植林の動画、大変楽しく拝見しました！とてもうれしいです。森の生き物達の声が入っているのもとてもいいですね。本当は現地にお伺いして一緒に植えたかったです。現地スタッフの方々ありがとうございます。**

ジャングルふれんずpresents 熱帯林セミナー

# バイオマス発電が引き起こす森林破壊のリスク

2021/10/2(土) 14:30〜16:30
参加費無料
@ルマ・ボルネオ(大阪都島)
&オンライン同時開催

ウータンでは、熱帯林を破壊して莫大な温室効果ガスを排出するパーム油発電への反対アクションを続け、2020年には舞鶴・福知山のパーム油発電事業を地元の方々と協力して撤退させました。
しかし、PKS（パーム椰子殻）、北米やベトナムの木質ペレットなどのバイオマス発電が日本でどんどん計画・実施されています。
本来、燃やしたらCO2が出るはずのバイオマス発電がなぜ日本で再生可能エネルギーとして広がりつつあるのか…？バイオマス発電の現状と問題点を、FoE Japanの満田夏花さんに伺います。

**日時：10月2日（土）14:30〜16:30**

**場所：ルマ・ボルネオ（大阪メトロ谷町線都島駅 徒歩３分／都島区都島本通3-8-10）**

**参加費：無料**

**お申込み：専用フォームへ記入　➡**

またはcontact-hutan@hutangroup.orgまで

オンライン(Zoom)での参加もできます！

①お名前、②連絡先、③直接参加かオンライン、④懇親会参加の有無をお知らせください

**ゲスト講師：満田夏花さん（FoE Japan）**

＊本学習会は、地球環境基金の助成により開催します


**ウータン・森と生活を考える会**

【OFFICE】〒530-0015 大阪市北区中崎西 1-6-36
サクラビル新館 308
「関西市民連合」気付
Tel.06-6372-1561
mail：contact-hutan@hutangroup.org
http://www.hutangroup.org
【年会費】4000 円
【郵便振替】00930-4-3880


◉購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。
◉ウータン定例会は、火曜日 7:00pm より「関西市民連合」事務所におこなっております。

この会報は、間伐材と古紙70%配合の再生紙と自然エネルギー(建築廃材等を利用したバイオマス発電)を使用して印刷しました